

平成 24 年 1 月 12 日

1 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 皆さん、おはようございます。所長の横村でございます。

○ 新年にあたりまして、私からご挨拶をさせていただきます。

昨年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、福島第一原子力発電所で事故が発生し、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、引き続きご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

昨年を振り返りますと、3 月 11 日の福島第一原子力発電所での事故発生以来、全社を挙げて収束に向けた取り組みを進めてきたところです。昨年の 12 月には、福島第一原子力発電所の 1～3 号機の原子炉は冷温停止状態に達し、敷地境界における被ばく線量が十分低い状態を維持することができるようになりました。

今後は、福島第一原子力発電所 1～4 号機の確実な安定状態の維持と、並行して廃止措置に向けた中長期的な取り組みを進めるとともに、引き続き被害に遭われた皆さまへの賠償等に全力で取り組んでまいります。

○ 次に、当発電所の状況についてです。

現在、当発電所の 5 号機と 6 号機につきましては、安全・安定運転を継続しております。

5 号機につきましては、今月 25 日より第 13 回の定期検査に入る予定としており、現在、定期検査の準備を進めているところです。今回の定期検査においては、ジェットポンプの流量計測用配管サポートの予防保全工事などを、また津波対策工事としては代替海水熱交換器設備の設置工事や開閉所付近に設置した緊急用高圧配電盤から原子炉建屋内の非常用高圧配電盤への常設ケーブルの布設工事、原子炉建屋トップベン

ト設備の設置工事などを実施してまいります。

現在、定期検査中の1号機につきましては、昨年11月末までにプラント停止中に予定していた作業をすべて終了しております。また、7号機につきましても、昨年11月に確認されましたディーゼル発電機の不具合に関する対応を含め、先月末までにプラント停止中に予定していた作業をすべて終了いたしました。

一方、ストレステストにつきましては、1，7号機を対象とした一次評価はほぼ終了し、最終的な取りまとめを行っております。これと平行して、現在、原子力安全・保安院に中越沖地震後に行った設備の耐震安全性評価の報告書について誤りがなかったかどうか、内容の確認をいただいているところです。今後、原子力安全・保安院から報告内容の確認をいただいた後、ストレステストの評価結果を同院へご報告する予定です。その際には、お知らせさせていただきます。

○ 次に津波対策の状況についてです。

防潮堤については、現在、1～4号機側において設置予定地の地盤改良工事を継続的に実施しており、今月末頃から本格的な基礎杭の打設工事を開始する予定です。また、5～7号機側では、セメント改良土による盛り土の築堤作業を順次進めているところです。

また、貯水池については、現在、準備工事として設置予定地周辺の整備工事を行っており、今月下旬より本体工事に着手いたします。貯水池の工事に関連し、淡水の供給源を増強する観点から貯水池周辺2カ所に井戸の設置も進めているところです。

こうした工事の状況については、報道関係の皆さまにもご覧いただきたいと考えており、あらためてご案内いたします。

○ 最後に、今年一年、この柏崎刈羽原子力発電所を、より安全性、信頼性を高め、地域の皆さまに信頼し安心していただけるような発電所となるよう、さらなる津波対策や耐震強化工事などに発電所員、協力企業の職員の方々と一丸となって取り組み、より一層、災害に強い発電所を目指してまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX
プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成24年1月)

平成24年1月12日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況													補足説明
			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定検による停止!													【4号機】 ・平成24年1月末にハフニウムフラットチューブ型制御棒4本の外観点検予定 【5号機】 ・平成24年1月10日からコストダウン運転中 ・平成24年1月25日から第13回定期検査開始予定
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止!													
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止!													
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止!													
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	運転中	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)														
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)														
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定検による停止!													

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (12月末現在)

12月	30.7%
23年度累計	45.4%
運転開始後累計	63.8%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (12月末現在)

12月	187,488
23年度累計	2,460,046
運転開始後累計	87,140,740

④ ドラム缶発生量(本) (H23年度第2四半期)

当期発生本数	332
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,615
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H23年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,336
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (1月4日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	934	2,547	55%
	刈羽村	94	240	5%
	その他	119	968	17%
	小計	1,147	3,755	77%
県外		84	1,356	23%
合計		1,231	5,111	-
		6,342		100%
協力企業社数(社)		710		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (12月末現在)

	12月	年度累計
地元	674	9,649
県内	276	12,400
県外	315	11,758
国外	34	201
合計	1,299	34,008

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
平成24年2月9日	次回定例所長会見予定

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成24年1月12日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	9月11日	7号機	定期検査時における直流電源系（B）の不具合の発生ならびに復旧について（区分Ⅱ）	<p>（事象の発生状況） 平成23年9月11日午後0時38分頃、定期検査中の7号機において、直流電源系の予備の充電器の故障を示す警報が発生し、直流電源系（B）の充電器が停止したことから、午後2時27分、保安規定で定める運転上の制限を満足していないと判断しました。その後、速やかに当該充電器を復旧し、健全性について確認したことから、本日午後5時55分、運転上の制限を満足しない状態から復帰いたしました。 なお、発生当時に行っていた燃料取出作業を一時中断しております。 当該系統に不具合が確認されていた間、蓄電池からの電源供給は行われており、停止時における機器の制御やプラントの運転監視については、問題ありませんでした。</p> <p>（安全性、外部への影響） 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 本不適合は充電器の入力電源を入切する電磁接触器（スイッチ）の故障が原因であり、当該充電器を含む7号機の全6台の充電器の電磁接触器については全て交換を実施しました。 <u>また、電磁接触器を工場で調査した結果、電磁接触器内のアルミ電解コンデンサの取付け部に液漏れ跡が確認されたことから、故障原因はアルミ電解コンデンサの電解液漏れによるものと推定しました。</u></p>
②	10月11日	7号機	定期検査中における制御棒の水圧制御ユニットに関する弁の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の7号機において、平成23年10月8日午後7時30分頃、点検後に実施する確認試験として、制御棒を駆動させる水圧制御ユニットに103体設置しているスクラムパイロット弁の動作確認を行っていたところ、1体の弁が正常に動作しないことを確認いたしました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 現在、7号機は、全ての燃料を原子炉から取り出しており、保安規定等によりスクラム機能は求められていないことから、プラントの安全性に問題はありません。 また、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 不具合が確認されたスクラムパイロット弁について、予備品への交換を実施しました。 また、全数の動作確認を行い問題無いことを確認しました。 <u>原因調査の結果、当該弁の上流側の機器の点検・交換を実施した際に、スクラムパイロット弁への空気供給ラインからスクラムパイロット弁可動部の隙間へ偶発的に異物が入り、一部の部品に傷が発生し、傷と異物の影響により動作不良に至ったものと分かりました。なお、スクラムパイロット弁内部への空気供給ラインについては清掃（エアブロー）を実施しました。異物混入防止対策として、これまでは点検対象のスクラムパイロット弁への空気供給ラインについて清掃を実施していましたが、今後は全てのスクラムパイロット弁への空気供給ラインについて清掃を実施し異物混入防止に努めてまいります。</u></p>
③	11月7日	7号機	定期検査中における非常用ディーゼル発電機の弁の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況）定期検査中の7号機において、非常用ディーゼル発電機（B）の潤滑油調圧弁の分解点検の一環として、当該弁の弁箱内側について浸透探傷試験を実施したところ、平成23年11月4日に複数の微細な孔のような指示模様を確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 今回の不具合については、非常用ディーゼル発電機の機能に影響を与えるものではなく、当該の非常用ディーゼル発電機は直近に実施した定例の運転確認試験においても機能が正常であることを確認しております。また、今回の点検の実施にあたっては、他の2台の非常用ディーゼル発電機について機能に問題がないことを確認しており、プラントの安全上の問題ははありません。 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） <u>当該弁を工場に搬出し詳細調査を行った結果、微細な孔は製造時に発生した錆物巣であることがわかりました。対策として当該弁については、放射線透過試験、耐圧試験等により異常がないことを確認した弁に交換を行い、試運転により漏えい等の異常がないことを確認しました。また7号機の他の2台の非常用ディーゼル発電機（A）（C）の潤滑油調圧弁についても同様な試験を行うと共に試運転により漏えい等の異常がないことを確認しました。</u> なお、念のため試験後の弁の復旧にあたっては、万一、弁箱内面とボルト穴が錆物巣によって通じた場合でも漏えいを生じないよう、弁の蓋取付けボルトを、蓋を取外す際にボルトの抜き取りが不要なタイプ（植え込みボルト）に変更し、ネジ部のシール機能を有する弛み防止材を塗布して締め付ける処置を施しました。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成24年1月12日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
④	12月9日	2号機	主排気筒の定例サンプリングにおける微量な放射性物質の検出について（区分Ⅲ）	—
⑤	12月15日	1号機	保安検査における指摘事項について（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成23年12月13日に開催された平成23年度第3回保安検査（保安規定の遵守状況の検査）の最終会議において、保安規定にて作成、保存することを定めている記録のうち、一部の燃料管理記録が確認されなかったことについて、保安検査官から保安規定に抵触する可能性があるとのこと指摘を受けました。 この記録は、平成19年3月に使用済燃料を1号機から所外に搬出した際に作成する記録であり、今回の保安検査に先立ち、保安検査官からの事前要請を受け、記録の確認を行ったところ当該の記録が所在不明であることを確認いたしました。これに関しては、12月2日に不適合としてホームページにて公表しております。</p> <p>（安全性、外部への影響） 平成19年の使用済燃料の搬出については、他の手続きや記録の作成により適切に行われており、安全上の問題がなかったことを確認しております。</p> <p>（対応状況） 当該の燃料管理記録については、他の記録を基に新たに燃料管理記録を作成いたしました。 今後、今回の事象を真摯に受け止め、他の記録を含め、しっかりと管理できるよう再発防止に努めてまいります。</p>